

コロナで困窮のシングルマザー

新型コロナウイルス感染拡大で生活が困窮し、生活保護を利用した女性が、自身の体験から「来たる総選挙で政治を変えたい」と語っています。

(岩井亜紀)



日本共産党の萩原陽子市議（左）とつながり「ホッとした」と話すアサミさん＝千葉県佐倉市（画像の一部を加工）

千葉県佐倉市のシングルマザー、アサミさん(43)＝仮名＝です。19歳の娘と、知的障害と精神障害がある息子(16)の3人で暮らします。自身も精神疾患を抱え、仕事を得ても長続きしません。飲食店で働く娘の給料と児童扶養手当、元夫からの養育費などが主な収入でした。

食費に困る日々

新型コロナウイルスの影響で、娘の収入が月々、3万円に激減しました。「生きるために子どもたちには何か食べ物を」と考える日々。シャンプーが少なくなると水で薄めて使い、少しでも食費に回せるよう工夫しています

「市民に寄り添う政治に」

「生活保護は権利、伝えたい」

た。

2月中旬、手元には千円札1枚と小銭がわずかだけに、精神的に追い詰められ、気がいたら手首を切っていたことも。わらにもすが

る思いでインターネット検索すると、日本共産党の新型コロナ対策に関する「しんぶん赤旗」の記事に遭遇しました。

「共産党がコロナ対策や児童福祉などに力を入れていたことが分かった」アサミさん。党千葉県委員会にメールを送信すると、萩原陽子党佐倉市議から連絡が。「たいへんだっ

たね」との萩原さんの言葉に、涙が流れました。それまで1人ですべて抱え込んでいました。

生活保護を利用したくても、扶養照会が

ハードルになっていました。父親の暴力などで実家とは連絡を絶っていたからです。

答弁に後押され

党書記局長の小池晃 参院議員が国会で「扶

養照会は義務ではない」と田村憲久厚生労働相から答弁を引き出したことを、萩原さん

が説明し、アサミさんは生活保護を申請。萩原さんや佐倉市生活と健康を守る会の会員、千葉県生連の高野秀純事務局長らが同行しました。

「扶養照会は義務ではないとは言うけれど、実家に頼れない理由を根掘り葉掘り聞かれました。思い出したくないことまで話さなければ生活保護を利用できないのかと怖くな

りました」とアサミさん。高野さんは「生活保護申請時の適切な対応を福祉事務所に求める厚労省の通達を担当ケースワーカーが読んでいないことが分かり、抗議しました」といいます。

萩原さんは「生活保護を必要とする人が、福祉事務所の対応で傷つくことなく利用につながるよう改善していかなければ」と話します。

パートタイムで働き始めたアサミさん。「生活保護は生きるためのお金です。今度の

総選挙で、市民に寄り添うような政治に変えたい」と前を向いています。「利用しようか迷っている人には、生活保護は権利なんだということを伝えた

い」